

令和 2 年度

事業報告

社 会 福 祉 法 人 天 光 会  
特 別 養 護 老 人 ホ ー ム 惠 光 園  
短 期 入 所 生 活 介 護 事 業 所 惠 光 園  
デ イ サ ー ビ ス セ ン タ 一 惠 光 園  
居 宅 介 護 支 援 事 業 所 惠 光 園  
ケ ア ハ ウ ス 惠 光 園

# 令和2年度 社会福祉法人天光会 事業報告

## 【法人理念】

～Precious one～

人との出会い・つながりと・そのふれあう環境、共に過ごせる時間を大切にします。

### 1. 活動内容

理事 6名 監事 2名 評議員 7名

理事会開催(3回のうち開催を省略した回数2回)

定時評議員会開催(1回のうち開催を省略した回数1回)

監事監査の実施

①令和元年度決算報告および事業活動報告、監査報告

②令和2年度補正予算の承認（年2回）

③令和3年度予算案及び事業計画案の承認

④指導監査の結果報告および改善

⑤定款の変更

⑥役員及び評議員の報酬等に関する規程の変更

⑦評議員選任解任委員会運営規則の変更

⑧就業規則等の変更

⑨給与規程の変更

⑩運営規程の変更

⑪業務執行報告（年2回）

### 2. 地域における公益的な取組

買物支援サービス事業（エリア：大宮台1・2丁目）

令和2年	実施日数	利用総数	協力総数	運転手総数
4月	緊急事態宣言により休止			
5月	緊急事態宣言により休止			
6月	1日	4名	1名	1名
7月	4日	17名	4名	4名
8月	4日	15名	5名	4名
9月	4日	19名	4名	4名
10月	5日	31名	5名	5名
11月	4日	26名	4名	4名
12月	4日	27名	4名	4名
1月	緊急事態宣言により休止			
2月	緊急事態宣言により休止			
3月	緊急事態宣言により休止			
合計	26日	139名	27名	26名

## 令和2年度 特別養護老人ホーム恵光園 事業報告書

### 【実績】

稼働率(前年比)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
令和2年度	97%	98%	98%	97%	94%	96%	96%
平成31年度	94%	93%	94%	95%	91%	89%	94%
	11月	12月	1月	2月	3月		
令和2年度	98%	98%	95%	95%	94%		
平成31年度	96%	97%	92%	96%	96%		

	目標値	実績
稼働率	98%	96.30%
平均要介護度		男3.9 女4.2
新規入居者数		23名
退去者数		25名
年間入院件数		23件
看取り対応		7名

### 【評価】

#### ・職場作りについて

研修体制については、コロナの影響により、各委員会が作成したレジュメを読み感想を提出してもらう形をとった。

入職者の研修・フォローアップなどは、シャイニーと協働し、昨年度後半から行うようになったが、現在も調整している部分がある。

専門性の向上・スキルアップに関して、園内研修のレジュメの作成などを行うことにより、インプット・アウトプットする機会が前年度より増え、スキルアップにつながった。

労働安全衛生に関しては、職員の負担軽減の為、Wi-Fi環境を補助金で行い、パソコンの入力がどこでもできるようにした。有給・特休の取得も、人員配置を手厚くし、取得しやすい環境を整えた。

腰痛防止に関しては、腰痛検査は行うことができたが、昇降式ベッドの導入が少なく、今後の検討課題。

#### ・入居支援について

昨年度に続き、長期入所は、ロングショートを利用していた方ばかりでなく、主に病院や老健、自宅で生活していた方を対象に空所となったところを補うよう対応した。

新規入所 23名のうち、ロングショートからは 13名、外部からは 10名だった。

外部からの入所がスムーズに行えず、空所が3週間以上空いてしまったこともあった。

今後できるだけスムーズに、空所期間が短く入所できるよう、家族やケアマネ、病院などと連携を図り対応していく。また、退所者が出そうな場合は事前に次の申込者の入所先や自宅、及びご家族に連絡を取り、準備していただくよう連絡する。

入居申し込みで待機している方はだいぶ増えてきているが、男性多床室の待機者は少ない。今後も少ない状態は続くと思われるため、病院や老健などに情報を発信する。

- ・入居者様の処遇について

食事・入浴・排泄に関しては、個々の身体状況に合わせたケアをした。  
身体の変化や本人の希望で変更する際には話し合いの場を設け対応した。(本館は1か月に1回のユニットミーティングがあるため)  
アクシデントについては、千葉市に提出した事故報告書は、6件。  
内容は骨折が2件、打撲が2件、急変が2件の合計6件。  
令和2年度は原因不明の打撲が2件あった。原因がはっきりしない事故であった為、ご家族の不信感につながってしまった。推測できる範囲でご家族には説明したが、今後は可能な限り原因を探り、ご家族に不信感を与えないよう、正確な説明につなげていく。

- ・苦情について

ご家族や入居者様からの苦情について、4件あり。  
内容としては、入居者様同士のトラブルが2件、事故によるご家族からの要望1件、利用料金の件が1件。  
ご家族には、園内で事実確認をしたうえで、確認できたものに関しては謝罪。  
料金については、相談員からの説明不足であったため、契約時にご家族が納得する形での説明を心がけていく。  
苦情については各部署連携を図り、可能な限り迅速に対応していく。

- ・年間行事について

園で行う大きな行事は、コロナの関係でほぼ中止となった。  
入居者様より、何も行事がないのはさみしかった、季節感が感じられなかつたなどの意見が聞かれた。  
ユニット別で行うレク等については、各ユニット偏りなく企画できていた。各ユニットそれぞれ、その時期に合った行事企画を行い、入居者様からは喜びの声をいただいている。

令和2年度 ユニット型特別養護老人ホーム恵光園 事業報告書

【実績】

稼働率(前年比)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
令和2年度	95%	94%	97%	95%	98%	100%	100%
平成31年度	100%	99%	97%	100%	97%	98%	98%
	11月	12月	1月	2月	3月		
令和2年度	100%	94%	94%	97%	95%		
平成31年度	100%	97%	98%	100%	99%		

	目標値	実績
稼働率	98%	96.50%
平均要介護度		男3.4 女3.8
新規入居者数		5名
退去者数		5名
年間入院件数		8件
看取り対応		1名

【評価】

・職場作りについて

研修体制については、コロナの影響により、各委員会が作成したレジュメを読み感想を提出してもらう形をとった。

入職者の研修・フォローアップなどは、シャイニーと協働し、昨年度後半から行うようになったが、現在も調整している部分がある。

専門性の向上・スキルアップに関して、園内研修のレジュメの作成などを行うことにより、インプット・アウトプットする機会が前年度より増え、スキルアップにつながった。

労働安全衛生に関しては、職員の負担軽減の為、Wi-Fi環境を補助金で行い、パソコンの入力がどこでもできるようにした。有給・特休の取得も、人員配置を手厚くし、取得しやすい環境を整えた。

腰痛防止に関しては、腰痛検査は行うことができたが、昇降式ベッドの導入が少なく、今後の検討課題。

・入居支援について

昨年度に続き、長期入所は、ロングショートを利用していた方ばかりでなく、病院や老健、自宅で生活していた方を対象に、空所となったところを補うよう対応した。

新規入所5名のうち3名がロングショートから、他2名は病院や老健からの入所。

外部からの入所は比較的スムーズに行え、空所期間も10日以内であった。

外部からの新規入居申し込みはほぼ無い状態であり、この状況は今後も続くと考えられるため病院や老健、居宅に情報を発信していく。

- ・入居者様の処遇について

食事・入浴・排泄に関しては、個々の身体状況に合わせたケアを行っている。ご本人の要望に対し、可能な限りその要望に応えるよう、各ユニットで創意工夫している。

身体の変化やご本人の希望によってケアの内容を変更する際には、話し合いの場を設け対応できていたが、コロナの関係ですぐにカンファレンスが開けず、対応が遅くなってしまったことがあった。

アクシデントについては、千葉市に提出した事故報告書は、3件。

内容は打撲（車いすやベッドからの転落）が2件、急変が1件。

事故防止委員会でもあがっていた職員が関わる防げる事故については、0を目指していく。

- ・苦情について

ご家族や入居者様からの苦情について、1件。

車いすからの転落があり、以前も同じような事故にて受診などし、何度も同じ事故の繰り返しによる不信感からの苦情。園長と共に自宅に謝罪しに行き、事故後の様子を毎週報告するということでご理解される。今後も苦情については各部署連携を図り、可能な限り迅速に対応する事を職員間で共有する。

- ・年間行事について

園で行う大きな行事は、コロナの関係でほぼ中止となった。

入居者様より、何も行事がないのはさみしかった、季節感が感じられなかつたなどの意見が聞かれた。

各ユニットで行うレクなどについては、大がかりのものは開催しづらかったが、食事レクなどを充実させ、入居者様も楽しまれている様子がみられた。

## 令和2年度 短期入所生活介護事業所 恵光園 事業報告書

### 【実績】

- 稼働率 97.2%(延べ7,090人利用)
- 男女比 (男性32% : 女性68%)
- 平均要介護度 3.4 (男性3.0・女性3.6)
- 新規入所者数 男性LS 10名/SS 5名・女性LS 11名/SS 3名 計 29名
- 退所・利用中止者 27名
- 照会及び利用件数(あんしん・居宅事業所・地域連携室等より)  
男性照会74件→利用10件/女性照会77件→利用15件(※従来型・ユニット型合計数)

○ほぼ毎月退所及び利用中止者が発生する状況はあったが、緊急や空床利用での受け入れもあり、稼働率を伸ばすこととなった。看取り対応・感染症未発生等現場職員の力も多大であった。通常照会に加え緊急利用照会も以前より増加しており、可能な限り受け入れをしていくとともに引き続き空床発生時は地域包括支援センター・居宅事業所・地域連携室等へ空き情報を随時FAX及び連絡し、空床が続く事のないよう早期に対応する。性別・居室タイプ別の問い合わせに対し、逃さないようにする。課長・特養相談員との連携、入所検討委員会での内容に沿い居室変更・新規入所の対応等スムーズに出来るよう努める。

### 【評価】

○利用者様及びご家族とのコミュニケーションに関しては、日頃からの連絡・報告等行っているが、面会自粛依頼は続いている為より詳細な報告をし、ご本人・ご家族の意向等確認・共有できるよう時間の許す限り話し合いを行っていく。面会に関しては、感染患者数・ワクチン接種者数等、動向を見定めながら都度検討しご家族へ報告。不安感等極力解消できるよう努めていく。

○苦情に関しては利用者様間でのトラブルより暴言に至ったケースが1件発生。当該利用者様・職員への聞き取りを行う。当該利用者様へは本人の機能に沿った説明・再発防止の声掛けを行い、暴言を受けた利用者様・ご家族へ内容報告をした。引き続き他の内容含め、苦情を受けることのないよう各部署と連携しながら職員全体で注意していく。

○千葉市に提出した事故報告は3件。いずれも転倒により、裂傷となったケースで指示を受け処置を続け完治に至っている。ユニット内職員・事故防止委員会で検討、再発防止に取り組んだ。

○整髪・衣服等利用者様の身だしなみ及び車椅子や居室環境に関し、未だ不十分な点があり改善が必要。利用者様の薬に関するも、落葉が度々発生。原因究明・改善策の検討及び再度マニュアルの周知・徹底。薬に携わる全職員がしっかりと意識し対応していく。

○年間行事計画に関しては、コロナ禍ということもあり実行できなかつた部分も多く、次年度の課題としてワクチン接種状況等考慮しながら工夫し細やかなサービスに努める。又、行事以外での個別ケア及びニーズへの対応も検討・実施していく。

## 令和2年度 ユニット型短期入所生活介護事業所 恵光園 事業報告書

### 【実績】

- 稼働率 96.7%(延べ3,528人利用)
- 男女比 (男性36% : 女性64%)
- 平均要介護度 3.1 (男性2.9・女性3.5)
- 新規入所者数 男性LS3名/SS3名・女性LS6名/SS3名 計15名
- 退所・利用中止者 15名
- 照会及び利用件数(あんしん・居宅事業所・地域連携室等より)  
男性照会74件→利用10件/女性照会77件→利用15件(※従来型・ユニット型合計数)
- 退所・利用中止者のうち、特養入居は2名。入院や他施設入居者が9名で、新規入所後比較的早い時期に空床が発生する状況が多かった。年度末においては看取り・疥癬発生と現場の負担増となつたが、疥癬拡大することなく特養空床利用含めての居室調整が稼働率に繋がることとなつた。引き続き空床発生時は地域包括支援センター・居宅事業所・地域連携室等へ空き情報を随時FAX及び連絡し、空床が続く事のないよう早期に対応する。性別・居室タイプ別の問い合わせに対し、逃さないようにする。課長・特養相談員との連携、入所検討委員会での内容に沿い居室変更・新規入所の対応等スムーズに出来るよう努める。

### 【評価】

- 利用者様及びご家族とのコミュニケーションに関しては、日頃からの連絡・報告等行っているが、面会自粛依頼は続いている為より詳細な報告をし、ご本人・ご家族の意向等確認・共有できるよう時間の許す限り話し合いを行っていく。面会に関しては、感染患者数・ワクチン接種者数等、動向を見定めながら都度検討しご家族へ報告。不安感等極力解消できるよう努めていく。
- 今年度苦情をうけたケースはなかった。引き続き他の内容含め、苦情を受けることのないよう各部署と連携しながら職員全体で注意していく。
- 千葉市に提出した事故報告は、転倒し打撲で受診したケースが1件。特段大事に至らず、経過観察。ユニット内職員・事故防止委員会で検討、再発防止に取り組んだ。
- 整髪・衣服等利用者様の身だしなみ及び車椅子や居室環境に関し、未だ不十分な点があり改善が必要。利用者様の薬に関するも、落薬が度々発生。原因究明・改善策の検討及び再度マニュアルの周知・徹底。薬に携わる全職員がしっかりと意識し対応していく。
- 年間行事計画に関しては、コロナ禍ということもあり実行できなかつた部分も多く、次年度の課題としてワクチン接種状況等考慮しながら工夫し細やかなサービスに努める。又、行事以外での個別ケア及びニーズへの対応も検討・実施していく。

## 令和2年度 そよ風 事業報告書

### 【年間目標】

- ① おやつレクを豊富に行う
- ② 業務内の報連相の徹底と職員の意識向上に努める
- ③ 寝たきりを作らない
- ④ お客様が暮らしやすい環境を作る

### 【評価】

- ① コロナ禍で外出する機会が減り室内レクを行う。室内レクのあり方に改善点を多数見つけられた為、次年度は改善して行く。もう少し室内の雰囲気作りや席のレイアウト、事前にアピールし CW も一緒に楽しみ催した方法を次年度行う。  
改善点を発見出来た事は良かった。
- ② ユニット内、勤務上当日リーダー（早リ・遅番）を発信源とし情報の伝達、共有・統一を図る。特に他セクションからの申し送り、お客様の対応の変更の統一は業務ノートを用い必ずユニット内にて徹底行う事を次年度において、まだまだ浸透するのに時間と説明が必要である。このリーダー制度が統一出来れば皆の責任感が出るようになると思う。
- ③ 寝たきりをつくらない  
生活のリズムを図り食事や排泄、離床、臥床の介助行う。特に経管者は臥床し過すことが主な為、離床を意識する。離床は体調によって出来る時と出来ない事があるが、離床していただいた時に拒否無く喜ばれていた。課題としては離床が業務的ではなく離床の意味・大切さを職員で再認識し共有したいと思う。
- ④ お客様が暮らしやすい環境を作る  
CW はお客様の生活に対し築きをあげ、リーダーは各担当者にもちかけ情報の共有やカンファレンスを行い、お客様の生活に寄り添っていく。各担当者は居室の美化にも気を配らなければならないが、業務に追われ疎かになる事がある。今後、床や床頭台の清掃にも力を入れたい。

## 令和2年度 大空ユニット事業報告書

### 【ユニット年間目標】

- 最低限の介護の質を上げて利用者様の生活の質を向上する。
- ① 排泄、食事、入浴、口腔ケアの質を向上させ利用者様の健康管理をきちんと行う。
- ② レク、外出などの行事を行い利用者様の生活の質を上げて楽しく過ごしてもらう。
- ③ 職員同士のコミュニケーションをきちんと行い報連相を必ず行う。

### 【評価】

- ① 食事、排泄、入浴に関しては個人個人が利用者様 1 人 1 人を様子観察し食事形態の見直しを行い排泄もその利用者に合ったオムツのサイズ、パットに変更し大空全体のコストの削減を行い、入浴は皮膚状態を確認し処置がある利用者様に関しては大空独自の処置簿を作成し担当以外の職員も利用者様の現在の処置内容を把握しケアの統一ができ健康管理が出来ていた。口腔ケアに関しては毎日、毎食できているもまだ居室の洗面台に誘導しケアを行うところまではできていない。
- ② レクリエーションに関してはコロナ禍という事もあり、外出等ができず室内での食レクを中心毎月 1 回は行うことができた。
- ③ 当日リーダー制を設けたが機能しない日は報連相がとれない事があった。

## 令和2年度 海ユニット事業計画報告

### 【年間目標】

#### ○ 「輪」

- ① 利用者様同士の輪
  - ・利用者様コミュニティの形成。
  - ・利用者様の主体性の向上に努める。
- ② 職員同士の輪
  - ・職員間の連携の強化。
  - ・業務や環境の見直しを行い、働きやすいように。
- ③ 利用者様と職員の輪
  - ・利用者様の意欲、能力に応じた支援、環境の提供。実現に向けた手助けをする。
  - ・利用者様との関わり合いを通して職員が成長する。

### 【評価】

- ① 利用者様同士の関係性を重視し、座席の工夫やコミュニケーションのきっかけとなるツールの提供などで利用者様間のコミュニケーションが活発となり、自主的な要望が増えた。
  - ・利用者様が安心感を持ち、行動心理症状を抑えることが出来た例があった。
  - ・退所などで利用者様の関係が変わった際の関係の再構築に苦労した。
- ② 業務の抜けがあった部分などの見直しを進め、定期的な業務計画を作成、実施することが出来た。半面、業務量が増加し、職員間のコミュニケーションや認識の不足、能力の差などが影響するようになった。そのため、職員間の連携や働きやすさは以前より悪化してしまった。  
職員間のコミュニケーションや認識、役割の整理などは令和3年度の課題とする。
- ③ 利用者様の希望や課題を職員間で認識の共有を行なうことが出来た結果、入所後、ADLの向上や身体的な課題を克服出来た例があった。
  - ・年間行事計画にて、毎月企画物のレクを開催することを目標にしていたが、職員の異動などで6ヶ月間の開催に留まった。
  - しかし、花火レクや利用者様参加型の調理レクなどを開催することが出来き、好評だった。

## 令和2年度ひまわりユニット事業報告書

### 【ユニット年間目標】

- 目的を持った生活をおくる

#### 【評価】

- ・コロナ禍という事も有り理髪や移動スーパー等施設での予定を案内する事が出来なかった。  
しかし、月始に床屋は来るのか、木曜のスーパーには行けるかと言った発言は多く聞かれた為今迄案内してきた事が利用者様方に予定として考えてもらう事が出来ており、必要な物の購入等要望を聞く事が出来る様になったのは収穫だった。
- ・職員が利用者様を集め何かレクをするのではなく、利用者様達が声を掛け合い、集まり過ごしている時間が増えた。
- ・他利用者様職員に対し車椅子を押そうか、お皿を洗おうか等声を掛けて下さる方が増えた。  
室内で過ごす時間が以前より増えた事から行動を良く見ててくれているとは言えるが、より職員間、利用者様に対しでの言動を中心身を引き締めた対応を心がけていく。
- ・利用者様方の自発的な要望が以前より聞かれる様にはなったが、職員間の連携にやや乱れが有り、又疥癬等の対応も有り、利用者様のニーズに十分にこたえる事が出来ず、そもそも身の回りの整理整頓等が十分に行う事が出来なかつた為、今後整理整頓等しっかりと行き、必要な物事を見つける様な支援が今後必要になって来るのか、今何が必要なのかを皆で考えられる様連携に勤める。

## 令和2年度こすもすユニット事業報告書

### 【ユニット年間目標】

- ① 職員個々のレベルアップによるチーム力の向上
- ② 利用者様の日常生活を充実させる

#### 【評価】

- ① 個々のレベルアップという点では具体的な成果の報告は難しいが、年間通してメンバーがほとんど変わらずに業務に当たれた事によりチーム力、連携面は確実に向上了。特に下半期には利用者様のADL低下が複数件一度に起きた事で業務がより複雑化し、個々の事情で業務内容に制限があった職員がいた点、またコロナや疥癬といった感染症の蔓延により通常よりも制限が多かった事から、各ポジションの役割を細かく再設定し直したがメンバーは滞りなく円滑に遂行してくれた。特にその日いる職員で話し合い、的確に状況を判断し臨機応変に対応していた事が一番評価できる点だと思う。
- ② 年間通してコロナ禍に置かれていた事で十分な成果は挙げられなかった。外出はできず、それに代わる楽しみ等を提供することも十分ではなかった。  
食事に関しては、生活相談員の協力もあり、週に1度は各利用者様が希望する物を用意・提供する事を始め定着させることができた。特定の職員ではあるが、来園規制の対象になっていた理髪業者に代わり全利用者様の髪を切ってくれた事はとても良かった。数ヶ月切れなかつた方が多くいたので、利用者様にとても喜ばれた。勿論、その職員が理髪を行っている間他職員は業務を代替したりフォローしたり、①の評価と重なるが連携ができた。

## 令和2年度さくらユニット事業報告書

### 【ユニット年間目標】

- ③ 職員の介護レベルの上達
- ④ 入居者様と職員の信頼関係作り
- ⑤ 入居者様の安全かつ生活しやすい環境作り

### 【評価】

- ③ 日常の当たり前のこと（離床後の柵を戻す・ベッドの高さを上げたら戻す等の基本的なこと）を含めて、一部まだ出来ていないので、引き続きしていく。
- ④ 今まで居る入居者様との信頼関係作りは行えているが、新しい入居者様との信頼関係が日も浅く、行えていない。いつもの顔なじみの職員になれるように、その職員一人ひとりに合った声掛け・対応を見つけていけるようにしていく。
- ⑤ 皮下出血や服薬忘れ等のアクシデントがあり、入居者様の安全かつ生活しやすい環境が出来ていなかった。

## 令和2年度 なのはなユニット事業計画報告書

### 【ユニット年間目標】

- ① 報告・連絡・相談の徹底
- ② ユニット内環境への配慮（環境美化含め）  
(音・発言等職員が注意して改善出来る事に関して)
- ③ 担当制の再周知

### 【評価】

- ① 令和元年度と比較すると報告・連絡は改善されつつあるものの、相談無く行う事が（ケア統一されている事を職員の主觀で勝手に変えてしまう事）目立っていた。
- ② 扉を閉める際に出る音（強く閉める事）は改善された。食器に関する音も前年度に比べると静かになった（生活環境で出る自然な音位になった）職員の発言に関しても改善されたと感じる。  
更に細かい事を言えば、フロア内を走る職員が居るが注意しても改善しない為、今後の課題として検討する。
- ③ 上半期に関して、自主的に行っている担当者と促さないと出来ない担当者もいた。下半期は職員の入れ替わりが良かったのかスタッフ間で協力しながら行えていたと思う。

## 令和2年度 通所介護事業 総合事業 事業報告書

### 【実績】

・営業日数	・稼働率平均	・利用延べ人数
H28 311日	62.0%	4,824人
H29 311日	63.6% (1.6%増)	4,946人 (122人増)
H30 310日	69.9% (6.3%増)	5,421人 (475人増)
R1 307日	70.1% (0.2%増)	5,377人 (-44人減)
<b>R2 307日</b>	<b>72.1% (2.0%増)</b>	<b>5,533人 (156人増)</b>
・新規契約数	・利用中止者数	・全体請求額
H28 16人	12人	41,684,272円
H29 19人	12人	45,589,910円 差額 3,905,638増
H30 11人	8人	51,221,055円 差額 5,631,145増
R1 13人	13人	50,824,608円 差額 396,447減
<b>R2 10人</b>	<b>15人</b>	<b>55,464,841円 差額 4,640,233増</b>

### 【評価】

・今年は、新型コロナウイルスの蔓延が問題視され、高齢者施設でもさまざまな対策を講じながら、運営を継続し感染者が出ない様に行ってきました。その中で、ご利用者様・ご家族様から新型コロナウイルスの感染を懸念され、利用を中止される方も出てきました。その中で新型コロナウイルスの影響により4日間の臨時休業をしいられました。被害総額も約100万を超え、それ以上にご利用者様も不安な時期を過ごされ体調や生活に変化が見られました。営業再開後も利用率が低下し、厳しい状況が続きましたが、常日頃からの信頼関係の構築により、徐々にデイサービスを利用した方が安心する。ご家族様からもデイサービスを利用すると負担も少なく助かるとの事で、利用の回数を増やすなど、改めてデイサービスの必要性を職員一同強く感じました。

・今年度の目標稼働率を何とか達成することが出来ました。まずは安定したご利用者様の確保と現在利用しているご利用者様の体調管理に配慮し、利用中止者を減らす努力を行いました。また、医療機関との連携も図り医療依存度の高いご利用者様も可能な限り受け入れることが出来ました。稼働率が上がった半面、職員への負担が大きくなり、事故の発生やサービスの質の低下等、新たな課題が浮き彫りになりました。また、年々ご利用者様のニーズが多様化しており、職員のスキル向上が求められてきてています。今後の課題としては、新型コロナウイルスの影響はまだまだ続くと思われる所以、ご利用者様が安心してサービスが継続できるよう、職員全体で感染対策や業務改善を行うと共に、職員の働きやすい職場環境の整備も同時に検討が必要であると感じた。最後に、R3年度はまた厳しい介護保険改正が予想されるので、しっかりと情報収集を行い対応していきたいと思います。

## 令和2年度 居宅介護支援事業所 事業報告書

## 【評価】

- ・新規契約件数 33 件（要介護 29 件、要支援 4 件）昨年に比べ、要介護 9 件増となっている。新規契約者の紹介先の内訳・・あんしん千城台 2 件、あんしん松ヶ丘 1 件、あんしん誉田 4 件、他居宅から引継ぎ 6 件、あんしん土気 1 件、直接家族や知り合いから 5 件、ショートステイ（恵光園、シャイニー）12 件、デイサービス恵光園 2 件
  - ・契約終了件数 19 件（要介護 17 件、要支援 2 件） 昨年に比べ、要介護 3 件増となっている。契約終了内訳・・長期入所 13 件（恵光園 5 件、特養、老健他施設 7 件、サ高住 1 件）、死亡 2 件、小規模多機能 1 件、要支援から要介護 2 件（1 件恵光園と居宅契約、1 件はあんしん千城台へ戻す）、転居 1 件
  - ・年間の実績トータル数としては、今年度は要介護が 804 件、昨年は 654 件。150 件の増となっている。要支援は今年度 106.5 件、昨年度は 108 件でほぼ変わりはない。要介護、要支援の合計としては、昨年度は 762 件、今年度 911 件と 149 件の増となり要介護件数はかなりの伸び率だったが、目標件数の支援合わせて 1 人 39 件にはまだ達していない。昨年 10 月よりケアマネが 1 人加わり、地域包括支援センターや病院に営業活動をした成果で地域包括支援センターからの依頼も増えた。今まで依頼の多かった、あんしん千城台からの依頼が減っている為、訪問等しながら繋がりを持つようにする。困難事例が多く契約してもすぐに終了になった案件があり、対応についてはその都度、地域包括支援センターに相談、連携し対処した。
  - ・令和元年の台風災害を踏まえ今後災害時等の対応策として、緊急時連絡表を各々の担当ごとに作成し、担当ケアマネが対応できない時にフォローできるよう作成したが、避難場所などの細かい確認ができていない所もある為、確認作業を今後進めていく。
  - ・コロナウイルス感染予防対策として、毎月のモニタリング訪問等は基礎疾患のあるご利用者様や、ご本人、ご家族様から訪問は控えてほしいとの希望があった場合は電話でモニタリング行った。他のご利用者様には、玄関先や部屋に上がっても換気をさせてもらいながらなるべく短時間で行い、その際は、マスクもちろん、各自で消毒液を持参し入る前に消毒をして予防対策おこなった。ご利用者様も不安の中生活しているためか、訪問し話ができる事で安心材料になったと思われる。今後コロナ陽性のご利用者様との接触も考えられる為、ガウンやフェイスシールド等一式を準備しておく必要がある。サービス事業所の職員や他ご利用者様が陽性になった案件が数件あったが、ご家族様が対応できないなどで新しい事業所を探すのに苦労したが、迅速にサービスが途切れないように対応できた。
  - ・特定事業所集中減算は、1 年通して減算はなかった為書類作成し保管している。
  - ・研修については、コロナウイルス感染予防の為開催する件数が少なく、年度後半にはズームでの開催もあり、今後はそのような開催が増えてくると思われ環境を整えて参加できるようについたい。

## 【実績】

## 令和2年度 ケアハウス事業報告書

ご利用者様の生活の場として安心して過ごせる環境作りを目指し、ニーズに対し速やかに対応していく。又、ご家族様や地域との交流がコロナ禍で出来ない為電話や手紙といった手段で近況報告や様子を伝え交流が途絶えないようとする。

### 【処遇】

- ① 援助計画は変化や見直しの時期が来た際、職員ミーティングで話し合い対応した。
- ② 月1回の料理教室・手工芸クラブでの作品作り等企画し実施。
- ③ 関係機関との連絡を密にし、担当者会議(限られた中で)を行いサービスの向上に努めた。
- ④ アンケート調査の実施に務めたい。

### 【健康管理】

- ① 定期的に病院に付き添い利用者が理解しにくい医師からの指示を聞き正しい情報を伝えた。又、日々の状況をデーターと共に医師に伝えご利用者様の健康維持に努めた。特変があった際には、些細なことでも家族に伝え共有した。
- ② ご利用者様が感染しない様に配慮し、必要なことは隨時声かけした。

### 【防災訓練の実施】

- ① 日中・夜間想定の防災訓練実施。ご利用者様・職員緊急時の対応の経験を深めた。
- ② 防災委員会が出来なかつた為、1ヶ月に1回防災委員のレジメを見て知識・技術を深めた。
- ③ 2019年9月9日の台風での経験もあり夜間想定での訓練、避難する際に必要な物の確認をした。

### 【ボランティア・慰問の受け入れ】

- ① コロナウイルス感染症予防の為ボランティア・顧問の受け入れを断つた。

### 【行事報告】

- 4月：移動スーパー・園芸クラブ・手工芸クラブ・料理教室・お花見（車内）
- 5月：移動スーパー・園芸クラブ・手工芸クラブ・母の日・料理教室（餃子）
- 6月：誕生日会・料理教室(冷やし中華・プラムジュース作り)・買い物イオン(中止)・手工芸クラブ・園芸クラブ
- 7月：誕生日会・移動スーパー・手工芸クラブ・園芸クラブ
- 8月：誕生日会・移動スーパー・料理教室(かき氷)・園芸クラブ・手工芸クラブ・恵光園夏祭り(中止)・浴槽清掃
- 9月：誕生日会・移動スーパー・園芸クラブ・手工芸クラブ・防災訓練・料理教室(カボチャ煮・イチジクジャム)敬老会
- 10月：敬老会・誕生日会・移動スーパー・園芸クラブ・手工芸クラブ・カーテンクリーニング・料理教室(カボチャカレー)
- 11月：移動スーパー・園芸クラブ・手工芸クラブ・居室清掃・創立記念祭(中止)・文化祭
- 12月：誕生日会・園芸クラブ・手工芸クラブ・移動スーパー・餅つき・クリスマス会・居室清掃
- 1月：元旦、獅子舞挨拶(中止)初詣(中止)・移動スーパー・手工芸クラブ・園芸クラブ・買い物イオン(中止)
- 2月：移動スーパー・手工芸クラブ・園芸クラブ・豆まき・料理教室(ホットケーキ)
- 3月：移動スーパー・手工芸クラブ・園芸クラブ・消防訓練・料理教室(餃子)・お花見ドライブ
- その他：懇談会・千城台クリニック受診（毎月）

## 【ご入居者様状況】

- ・移動なし
- ・新規入居、退居住件数 0 名
- ・入院者

男性 1 名 千葉南病院 白内障手術（8 月右眼、9 月左眼）脱水 12/28～1/12

女性 1 名 青葉病院 敗血症 1/15～2/6

サービス利用状況(令和 3 年 4 月 1 日現在)

介護度	デイ利用	生活支援	通所リハ	身体介護
介護度 1	5 名	5 名	5 名	
介護度 2	2 名	1 名	2 名	1 名
介護度 3	1 名	1 名	1 名	1 名
介護度 4	2 名	2 名	2 名	
自立	5 名			

訪問歯科 男性 2 名・女性 4 名 リハビリ・マッサージ 男性 1 名・女性 2 名

## 令和2年度 医務室事業報告書

### 【実績】処置関連

	褥瘡処置	軟膏処置	包帯交換	パルーン管理	スマ管理	経管栄養	BS チェク	インスリン注射
4月	181	1104	330	160	18	108	14	54
5月	226	1270	486	181	8	143	7	62
6月	227	1365	525	196	7	145	4	54
7月	216	1355	452	178	0	119	5	56
8月	151	1338	414	187	0	64	31	64
9月	82	1325	421	166	0	84	32	78
10月	62	1229	548	162	3	108	33	81
11月	67	1519	537	213	2	125	31	84
12月	51	1061	419	232	22	118	28	66
1月	43	984	467	230	16	125	30	73
2月	47	1560	535	252	14	143	34	87
3月	48	1816	457	289	14	155	46	93
合計	1401	15926	5591	2446	104	1437	295	852

### 回診・受診関連

	回診(人)	受診(千城台クリニック)	受診(他院)	救急搬送	入院
4月	94	4	27	2	4
5月	111	1	13	1	1
6月	102	4	27	2	4
7月	77	4	27	2	4
8月	124	16	13	2	4
9月	105	17	13	3	7
10月	110	6	15	1	3
11月	121	7	28	3	4
12月	50	6	30	2	2
1月	168	4	18	2	6
2月	129	4	27	2	4
3月	136	19	17	4	3
合計	1327	92	255	26	46

### 【評価】

- 令和2年度は感染症、疥癬の蔓延があり対応に苦慮した。現在も残存しており対応を継続している。疥癬の対応が長く続いていることもあり、疥癬疑いの段階から強めの対応を行っていくという方針で各部署協力して対応している。今回の疥癬対応を含め感染症全般について、職員の知識、認識、手技等レベルアップが必要と考えられるため、感染症委員会や看護職員が中心となって感染症に対応できるように園内研修等の機会を通じて知識の向上を図っていく。
- 1年間通して、職員の入れ替わりがあり落ち着かない状況が続いたが、職員が協力して対応した。今後も医務室内看護職員で連携を密に取り業務にあたり、他部署とも連携を取りながら、より良い看護ができるように対応していく。

## 令和2年度 栄養課事業報告書

### ■食事サービスの充実

毎月1回の選択食の聞き取りでいただいた、リクエストメニューは献立に組み込み、出来るだけ利用者様が食べたいものを提供するよう心掛けた。

行事食と御馳走の日は、毎月2回利用者様の好きな刺身、天ぷらを中心に季節の食材や洋食メニューも入れ楽しんで頂いた。

行事食の季節のデザートは手作りにし（こいのぼりババロア、あじさいゼリー、節分鬼ゼリーなど）その行事の雰囲気を味わっていただけるよう工夫した。

今後も皆さんに満足いただけるような食事内容を考えていく。

### ■栄養管理

栄養ケアマネジメントを行う時に必要なデーター（体重、食事摂取量、血液検査値など）を集めると共に皆さんに協力して頂いた。今後も介護員、医務、相談員と連携を図り、利用者様の状態を細かく把握できるようにする。

### ■献立会議

令和2年度はコロナウイルス感染防止により、密を避けた為、思うように会議が進まず、栄養の情報発信不足があった。令和3年度は利用者様の栄養管理を行う上で、職員の栄養知識の向上が行えるよう会議の内容充実を図っていく。

### ■衛生管理・安全管理の徹底

厨房内の清掃は、常に行うよう指導している。委託業者の衛生部も定期的に巡回しているので、清掃不足のところなど指摘があった場所を集中的に清掃できている。厨房内を清潔に保てるよう清掃に力を入れていく。

### ■備蓄食品

台風による停電を経験し、電気が使用できない時、備蓄食品以外にも、ガスで米が炊けるように整備した。実際に災害が起きた時にスムーズな食事提供が出来るよう防災委員会を通じて周知できるよう働きかけていく。

### ■多職種との連携の徹底

他職種と日々の連絡や会議、カンファレンス等を通じて日常的な情報交換・共有を徹底していく。